



第三号
平成22年6月18日
発行
熊本市高平2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義紹

浄国寺

施餓鬼法要 檀信徒盆供養

のお知らせ

浄国寺夏季施餓鬼法要

日時 平成二十二年七月三日(土)

午前十一時より

浄国寺檀信徒お盆先祖供養

法話 球磨村一勝地 意足院住職

中井 就公 師

簡単な弁当を用意しております。

出欠及び人数を同封の葉書で返信下さい

いよいよ梅雨に入りま
した。気温湿度共に上昇
し、過ごしにくい季節と
成って参りました。今年

も毎年恒例の、お盆の先
祖供養を、左記の日程で
厳修致します。当山では、
原則として、初盆のお宅

は伺う若しくは、
お寺にお詣りに
来て頂きますが、
お盆中に全ての
檀家のご自
宅を一軒一
軒回るとい
うこと行わ
ないように
しています。
これは、一
〇年前に私
が大病を患
つた事、先代
が高齢にな
り外回りに
支障を来す
ようになつ

た事、更に急激に檀信徒
の数が増え対応できなく
なつた事、以上の点から
個別に回るのには初盆を迎
えられたお宅だけに限ら
せて頂くようにしました。
この点を何卒、ご理解賜
りますようお願い申し
上げます。

お施餓鬼とは

「お施餓鬼の法要です」
と言うと、「うちの先祖
は餓鬼じゃあなかい！」
と言われる事があります。
ここで言う餓鬼とは、誰

も供養をしてくれる人が
いない御霊の事を言いま
す。誰も供養してくれな
い御霊に御供えをして読
経する事によつて、その
功德を自分の先祖の供養
に回し向けるのです。そ
の為に「施餓鬼法要の時
は「三界万霊」の位牌を
祀り、山海の珍味や餓鬼
飯や浄水、沢山の御供え
をして甘露の門を開く真
言を唱え、沢山の僧侶で
法要を営みます。言い換
えれば、自分のご先祖様
にだけ供養をしておけば、
それで良いとは考えず、
供養をしてくれる人のな
い御霊も全て幸せで、安
らかにいてくれますよう
に(勿論、自分のご先祖
も含めて)お祈りをする
大切な法要です。
今、この時生きている
我々も同様です。自分や
自分の所だけ良ければよ
いと考えずに、多くの
人に感謝する、先祖の為
にも自分の行いの脚下を
振り返りしつかり善業を
積み追善する事が大事で
す。では、脚下を見つめ
直すという事は、どう
いう事でしょうか？足りて
いる筈なのに、得られる
ものなら、まだ欲しい、

もう少しでも貰いたいと
思つてないでしょうか
(不知足)?他人の不幸
は蜜の味とばかりに、人
の失敗を望んだり、自分
だけ良ければよいと思つ
てませんか?みんなが幸
せに成ることで自分も幸
せになれることを忘れて
いませんか?
先祖供養とは、亡くなつ
たご先祖様方が、今この
世界に生きている我々に
対して「きちんと努力し
て、まじめに、そしてみ
んなの幸せの為に生きる
ことが本当の幸せなんだ
よ」と教えてくれて、
「いつも、みんなの幸せ
を願つて見守つているか
らね」と伝えてくれる大
きな機会なのです。
「一切衆生悉有仏性」と
言います。生きていても
のは全て仏様(そうなれ
る筈)なのです。しかし
怒りや欲望、無知 即ち
煩惱が邪魔をして、自分
の中の仏様に出逢うこと
が出来ないだけだという
のが道元禅師(そしてお
釈迦様)の出発点です。
供養をする心と機会を
持つている時間だけでも
自分の中の仏様に出逢い
たいものです。

浄国寺坐禅会

前日も触れましたが、当山では毎週木曜日の夜八時から、一般の方を対象にした坐禅会を行っています。

現在は毎週五、六名程度の参加です。始めるきっかけは、先代住職が鎮西高校の教諭だった頃、野球部長に頼まれて、高校生を対象に坐禅会を開いたのがきっかけです。その後、現在地に移っても週に一度の坐禅会は続け、宗務庁にも認可参禅道場として登録されています。出来るだけ、一般のサラリーマンの方にも来て貰いたいという考えから時間帯を夜に設定して、現在地に移動しても、毎週継続して、もう四十年以上続いています。

我々の宗派は曹洞宗ですが、一般には禅宗と言われていきます。即ち、その本分は坐禅にあるといつていいです。私は熊日生涯学習プラザで、今年一、二月には「坐禅と普勸坐禅儀を読む」、現在は五、七月で「坐禅と修証義を読む」という講座で講師をさせて頂いています。募集と共にすぐに定員一杯になるそうです。皆さん一所懸命に学ばれていきます。

何の為に坐禅をするのか

一杯になるそうです。皆さん一所懸命に学ばれていきます。

熊日の坐禅教室も満員、昨年鶴屋で開催された永平寺展での体験坐禅コーナーも常に一杯の状態でした。

当山の坐禅会も、一度坐禅がしてみたいと訪れる方が沢山いらつしやいます。何故、今、坐禅が人々を惹きつけるのでしょうか？「坐禅をして、無我の境地を体験してみたい」、「近頃、落ち着かないので、静かに座って精神修養をしたい」、「お前は、修業が足らんと言われるので、坐禅でもすれば少しは良くなるだろう」と人によって、動機は様々です。数十年前に、東大医学部で修行僧の坐禅時の脳波を測定したら、大変良い状態の波形が出たという報告もありました。近年の脳科学の研究では、有田秀穂という学者が坐禅の呼吸法と朝の日光が（僧堂では、曉天坐禅と言って夜明けと同様に朝食前に起きたらまず坐禅をします）、脳の活性化を促し、脳内物質のセロトニンの分泌の状況が非常に良くなると実証し、ひきこもりや、鬱の治療にも用いられています。

私は、坐禅をするきっかけは何でも良いと思つていきます。それで、その人が、心の安らぎを得て、毎日を生き生きと生きていく契機となれば。しかし、坐禅をするにあたり、これだけは伝えます。

道元禅師は、「何かの爲に坐禅するのは正しい坐禅ではない。悟りを開く為に坐禅をするのではなく、坐禅そのものが悟りであり、坐つて居る姿が仏の姿なのだ」と教えられています。つまり目的と手段とを分けて考えないという事です。私たちは、日々の生活で、何かを得たり、地位などを目指したりして、どうやって、上手くいくかを絶えず考えて工夫努力をしています。しかし、曹洞禅では、修証一如と言って修（修行）と証（覚証＝悟り）は別ではない、悟る為には坐禅をするのではなく、修行と悟り

は一つであると説いています。坐禅が悟りという目的の為のものなら、誰が早く悟りに行き着くか、どういつ坐禅をしたら上手く悟れるかを、ちつぱけな自分の頭でこねくり回すことにならざるし、何より、それでは、どうやって人に勝つて人より上手く沢山の物を得ることが出来るかという世間一般の日常（これを娑婆＝忍土＝苦を忍ぶ場所と言います）と同じです。「何の為にもならない坐禅」だから素晴らしいのであり、その坐禅で「天地一杯に自分が存在している事、生きていくよろこび」を感じ、五分間でも自分の中の仏様に出会えれば、それが一番肝要だと思えます。私は、せっかく、ご縁があり、浄国寺に足を運んで下さる檀家の皆様にも、少しでも坐禅に触れて頂ければいいなあと思っています。是非、坐禅会にも足を運んで下さい。

定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より

当山本堂にて

一炷（約四十分）坐禅をして道元禅師の著述

「関する話（約二十分）」
会費会則一切なし初めの方は、連絡下さい

浄国寺 音楽会 大盛況

毎年、四月二十九日（昭和の日）は、活人形師 松本喜三郎翁の命日であり、その時には墓前祭の谷汲観音様の観音供養を行ってきました。翁が興業師も兼ねていたことに因み、本堂で奉納音楽会も毎年行ってきました。参加者は、喜三郎顕彰会の方から始まったのですが、近頃は近隣の方、檀家の皆様も来て頂けるようになりまし。その中には地元音楽関係者もおられ、お寺の音響効果は、柔らかいし、場所的にも素敵だという事で、音楽会の会場として使用の申し出も増えました。昨年九月のジャズの鈴木良雄氏（今年一月日本ジャズ界で権威のある南里文雄豊登されました）は、今回は寺の都合に合わせてメンバーを厳選して来ると約束してくれました。これからもご案内しますので、皆様是非お出下さい。

最後に

この次は、春のお彼岸の案内になると思います。その時までは本堂の床の張り替えを済ませ新たな集いの場としたいと考えています。次回は、「何故私が僧侶になつたか」等、私の略歴などについても書かせて頂きたいと思つています。